

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0690400304		
法人名	特定非営利活動法人 ひのき		
事業所名	グループホームあすなろ窪田		
所在地	米沢市窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	令和 4年 12月 15日	開設年月日	令和 3年 5月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の生活スタイルや自分らしさを一番に気ままに過ごして頂き、理念に掲げている「人の為に何かしたい」という思いを持ち、ご自身でやり遂げ達成感を感じられるような関わりが出来るようあたたかく見守りながら支援しています。田舎特有の田んぼ畑に囲まれていることから、田植えや稲刈り等の懐かしい風景を眺めながら季節の移り変わりを感じる事が出来ます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 25日	評価結果決定日	令和 5年 2月 8日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が「特定非営利活動法人ひのき」になり、新たなグループホームあすなろ窪田として理念の「これまでの生活を続けられるように、まわりにあたたかく見守られながら、自分でも何かしてあげたい。」掲げ、職員は利用者に寄り添い思いを大切にしながらできることを継続してもらい、笑顔を引き出し楽しい日常生活を送れるように支援しています。利用者はそんなあたたかい支援に支えられて、それぞれができることを手伝い皆と一緒にするレクリエーション活動などを通して、楽しい毎日を過ごしている明るい事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については意義に基づき作成している。職員全員で理念について理解をし取り組んでいる。	時折理念の確認を行い、利用者の思いに合わせてながら身体機能の維持に努めている。理念に沿って、あたたかく見守りできないところを手伝って喜んでもらい、職員間で理念を共有しサービスの意義を踏まえて意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員会を活用し、地域の方に参加して頂いているがコロナ禍の感染拡大によって交流は控えている。	コロナ禍で地域交流はできないでいるが、収束後には以前の食事会や祭りなど地域交流に多く関わりたいとしている。災害時には利用者の安全確保が難しいことから地域からの協力体制について検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援方法や認知症の方についてのお話はコロナ禍において今年は話す場がない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて定期的に取り組みを報告させて頂き、FAXにて意見等頂いている。そこを踏まえて、サービス向上につなげられるよう職員間に報告している。	運営推進会議は定期的に書面で実施して、意見や要望をもらいサービスに反映させている。意見や要望についてはミーティング時に職員間で話し、結果について各委員に書面で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護給付を受けておられる方もいる為、担当者とともに連絡や相談をさせて頂き、実情もお伝えしている。	事業所の実情やケアサービスの取組みなどを伝え、課題があった場合は、市担当者から指導や助言をもらっている。利用者についての相談等も丁寧に対応してもらいアドバイスを受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	「身体拘束」に関する内部研修を行っており、4点柵をしないように低床ベッドの活用やベッド脇に布団を敷く等にて転落防止に努めている。尚、日中帯の玄関の施錠に関しては、常に職員が傍につくことや短時間の外気浴、気晴らしに塗り絵や新聞たたみ等行提案し行っている。	身体的拘束等の適正化のための指針に基づき、身体的拘束の適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。身体的拘束について研修を重ね知識や理解を深めて、言葉がけでも職員同士が注意し合いながら優しい口調で接しており、利用者は安心して日常生活を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回「身体拘束」と併せて内部研修を行っており、職員間で意見交換を行い理解を深めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所後に成年後見人制度を活用される利用者があり、直接お話をする場面があり、学ぶ機会があった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時に丁寧に説明し、不安や疑問点に関してお答えし理解・納得を図って頂けるよう対応している。常に相談等受付している旨もお伝えしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、お話の中で意見や要望等がないか確認し、月1のミーティングや運営推進委員会にて周知している。	玄関内に意見箱を設置いつでも投函できるようにしている。家族等には毎月の書類送付時に併せて利用者の思いや生活状況を添えて伝え、電話や来訪時に意見や要望を聴いている。要望等があった場合は、職員間で共有を図り運営に活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1のミーティングにて職員の意見や情報交換する場を設けているが常日頃から効率よく業務に従事できるよう反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1のミーティングや日々の業務の中で、働きやすさも話し合いながら改善も行っている。尚、職員の能力に合わせて給与にも反映されている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や防火管理研修等の外部研修や内部研修に参加できるよう配慮し促している。	年間研修計画に基づき内部・外部研修を実施している。外部研修を受講した場合は、研修報告書を提出してもらい、職員皆が見れるように掲示し、ミーティング時にも伝達を行い共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本年はコロナウイルス感染拡大において外部の同業者との交流は自粛しており活動等に参加出来ていない。	他施設の資料などを提供してもらい、情報交換を行ったり他者の指導や助言を受けて入居率向上などに繋がっている。他の事業所主催の勉強会に参加して取り組みを学び業務に活かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で知っている情報を職員間で共有し入所後はご本人の話に耳を傾けアセスメントを行っている。安心安泰を念頭に信頼関係を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のご家族からの聞き取りの際や、契約時のお話の中で困っている事や不安な事、要望等をお聞きし解消できるよう説明を行いながら対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談の段階で現在のニーズを把握できるよう努めており、施設内での出来る事や出来ない事をご本人ご家族と話し合い理解して頂いている。ご本人の思いに添えるケアにつながるよう努力している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しつつ生活の中で出来る事を行って頂き、役割がある事を実感してもらいながら毎日の生活の生きがいにつながるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告書では状態をご報告させて頂き、毎月の行事等の催し物に関しては「ひのき便り」にて写真を載せお見せしている。来所時の報告や必要時の電話相談を行い、常にご家族との関係性を考えながら対応している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、面会再開した際にはご家族の他、親戚の方、ご友人にお会いすることが出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの相性等考慮し話やすい食席にご案内し、楽しく穏やかな雰囲気が作れるよう配慮しています。また、職員が間に入ったり話題を提供することでお互いが良い気持ちで時間を過ごすことにも努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても相談は受け付けている旨はお伝えしている。入院等の理由で退所になったとしても様子をお聞きしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの話やコミュニケーションの中で思いや意向に耳を傾け把握できるよう努めている。	入居時に要望等を聞いているが、日常生活の中で困っていることやしたいことなどを聞き出し、言葉で表せない方からは表情や動作などから汲み取っている。日常の出来事や申し送り事項などはタブレット端末を使用したり自宅でも携帯電話等で確認できるようにして職員間で共有を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日々の会話、ご家族からのお話を通じて生活歴や生活環境等をお聞きし、なじみの物があれば持参して頂くなどこれまでの暮らしを把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人との毎日の行動や会話、日々の記録、バイタル、申し送り、ミーティングにて心身の状況を把握し皆で共有できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、関係者から聞き取った内容をケアマネージャーを主に職員間で話し合い、介護計画を作成し目標達成に向けて取り組んでいる。また3ヶ月ごとにモニタリングを行い、変更がある際にはご家族や職員間で話し合い介護計画に反映している	プラン作成する上で本人の気持ちを尊重し、家族等の希望も大切にして計画を立てている。毎月のミーティングと併せてケア会議を開き、日常の様子や動作の変化などを確認し、担当者の意見も組み入れて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット内の個人記録・業務日報に経過、ケアの実践、気づき等を入力いつでも職員が確認できるように対応しており、周知徹底出来ている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>必要な方には主治医に相談した後、ご家族の意向を聞き認知症デイケアの利用を支援している</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>現在、利用者様全員が協力医の訪問診療を受けており、都度主治医や看護師への相談報告を密に行っており、特変時にはご家族のご意向を確認しながら慎重に対応している</p>	<p>定期的に内科と歯科医による往診を受け、健康面や医療面で不安なく過ごすことが出来るようにしている。他の診療科目を受診する際には家族等の協力で通院介助を行い、状況によっては職員が代行することもあり、利用者・家族等と受診結果に関する情報を共有し適切に支援している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師には週1来所して頂いており、その中で申し送りをしっかりと行い、相談報告をしている。訪問看護師からのアドバイスや助言は主治医に伝えることでご本人が安心して受診や処置を受けられている</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な書類(介護サマリー、お薬情報、紹介状等)を準備しスムーズに情報提供できるようにしている。入院時もこまめにこちらから連絡し現状をお聞きしている</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化した際と終末期のご意向について確認をしている。そのような状態になった際に再度ご意向を確認し主治医に施設での在り方も踏まえてお伝えしている。現在、施設内での看取りは行っていない</p>	<p>重度化して食事を摂れなくなったり医療行為が必要になるなど容態が変化した場合には、本人と家族等の意向を踏まえて医療機関や他施設への移行を奨めている。過去に医師の指示の下で看取りを行った経験もあり、今後は本人・家族等の意向を踏まえ医師の指示の下で取り組んで行くように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務に従事している職員は、AEDを含めた救命救急の講習を受けており期限が切れた際には再度受講している			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防職員が立会いの下行っている。水害時の訓練は出来ていない	火災や地震と夜間も含めて災害発生時の初期対応と利用者の安全確保を主眼として定期的に訓練を実施している。災害に備えて食料や飲料水・救急箱等を備蓄し、ハザードマップを活用して水害時の浸水区域なども確認している。	災害発生時に地域からの協力が得られるように自治会を通じて協力を呼びかけたり、運営推進会議で理解を求め、協力体制を築かれるよう期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、お一人お一人に合った言葉かけや対応をしている	研修を通じて対人援助の基本を理解し、言葉の内容や口調などが人格やプライバシーを損ねることのないように、常に確認と改善に向けて取り組んでいる。プライドの高い方にはその人の個性として捉えて気配りと思いやりを持って支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でさまざまな決定権はご本人であり、無理強いや押しつけをせず、なるべく意思や希望に添うように働きかけている			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月ミュージックケアや行事等行っているが、参加はご本人にお任せしている。個別に塗り絵等できるように配慮している			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時の季節に合わせ、衣類を何着か用意し、その中から選んで頂いたり、アドバイスをを行う事でその人らしさに気を付けている			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付け等、その方の能力に合わせてお願いをし職員と共に行っている	利用者は手伝いができることで楽しみや喜びとなって心身の維持向上に繋がっている。その日の食事を担当する人が食べにくいものや代替品なども考慮して献立を作り、三食手作りで調理する音や匂いが刺激を与え、職員も利用者と一緒に食事を摂っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに好みや禁止食材を把握し、その方に合った食事形態にて提供している。尚、1日2回のお茶の時間も設けており、水分補給に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ等行っている。ご自分で出来ない方には介助にて清潔保持に努めている。月2回訪問歯科にて口腔内の確認、治療をして頂いている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴えのない方には、定期的に声がけしトイレ誘導行っており、落ち着かない時や何度も立ち上がる様なしぐさがみられた時など随時誘導を行っている。排便の有無は徹底し伝達している	排泄チェック表を基に一人ひとりのパターンを把握し、動作を見ながら適宜声をかけて誘導している。あからさまな誘導やプライドを傷つけたりしないように注意しながらさりげなく支援し、失禁時には羞恥心や不安感を軽減するよう配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬に頼りすぎず、イージーファイバーや水分摂取にて排便を促しお茶の時間にはヨーグルトを提供することで便秘予防に努めている			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や気分を考慮し、無理強いはずせずご本人の気持ちを尊重している。尚、1人対応での入浴介助が難しい場合は安全を考慮し、2人対応にて安心して入浴できるように対応している。入浴剤を使用し毎日さまざまな色や匂いの湯舟に浸かることが出来、楽しめる様工夫をしている	入浴回数は週二回平日の午前中に入ってもらうようにして、他に希望があれば柔軟に対応している。ほとんどの人が入浴介助を必要としており一人ないし二人で介助を行い、入り口の開閉にも注意して体にタオルをかけた時特に正面には立たないように配慮して支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の居室がゆったりと休息できる場となるように環境整備を行い、なじみのものを配置している。尚、好きな時に休めるようご本人にお任せしている			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報とお薬を保管しているが、いつでも確認できるようにしている。お薬が変更になった際にはタブレットや申し送りノートを活用し情報共有に努め、様子観察を行うことで早期に症状の変化に気づけるよう心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴や嗜好、能力を把握し個々に合わせた支援を心掛けている。気分転換や役割を持つことで毎日の生活に充実感を感じるよう配慮している			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や体調の良い日に、個別でのドライブや外気浴を行っていたが、今年はコロナ感染拡大にてドライブに行っても、車内で景色を眺めることしか出来なかった。ご家族との面会や接触もなかなか出来ない状況だった。	外出支援や買い物など個別支援に力を入れていたがコロナ禍で行動を制限され、利用者は収束して再びドライブや外食などを楽しむことが出来ることを待ち望んでいる。感染対策を徹底して玄関先での短時間の面会なども可能となり、利用者・家族等も喜んでいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の持ち込みはお断りしており、立替購入にて買い物を行っている。現在は、コロナ感染拡大により職員が買い物代行している			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ご家族や友人へ電話をかけて頂いている			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には安全性を1番に配置や温度管理、明るさ、清潔等に配慮している	食堂を温かくして居心地よく安心できるようにしており、利用者は居室と食堂を行き来してゆったりと過ごしている。華やかな装飾は控えて落ち着いた雰囲気に設え、季節に応じて庭の花を生けたり利用者が作った作品や写真を飾り、穏やかに生活してもらえよう工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士がゆったり過ごせるようソファを配置している			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、なじみの物や好みの物(居室に置いても危険のないもの)をお部屋に持ち込むことで、ご自分の居室が心地よい空間となるように配慮している	家族の要望や利用者の思いを汲んで落ち着いて過ごしてもらえるように整えている。使い慣れたものを持ち込んだり人形などを飾って思い思いに設え、担当者が身の回りのことを手伝って居心地の良いその人らしい居室づくりを行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が出来ることや出来ないことを把握し、毎日の生活の中で安全性を考えながら、1人ひとりの力を活かしながら過ごせるように努めている			